

広報ふたば

双葉郡小学校長会
第109号
会長 貴任 秀一
校長 行長 秀
発行 小岩 崎

双葉郡小学校長会 副会長あいさつ

『そんな学校』は『こ』にある

双葉郡小学校長会副会長
双葉町立双葉南小学校長



泉田 淳

まず、はじめに、この度の台風十九号に被災された皆様にお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興をお祈りいたします。

ここに「百歳の遺言」のちから『教育』を考える」という本があります。福島大学名誉教授の境野健児先生に紹介していただいた本です。

ネットで注文し、梱包を解き手に取って驚いたのは、著者が、私が大学生だった時の学長である太田堯(たかし)先生だったということです。当時二十歳代前半だった泉田青年が、もう間もなく定年を迎えようとしているのですから、当時の学長先生はと言えば……なあるほど、本の題名に合点がいきます。

読み進めるうち、非常に興味深

この拙文をお読みの双葉郡の学校の先生なら、私と同じく即座に激しく頭(かぶり)を振ったことでしょうか。なぜなら、今、私たちが毎日勤めているのは、まさにここに書かれている「そんな学校」であるからです。

だからこそ、私たち双葉郡の学校の校長は、目の前にある学校を自信と誇り(プライド)を持って経営してまいります。その幸せを感じていきましょう。

今朝も、私は、通学バスから降りてくる子供たち一人一人の元気なあいさつを受け、「今日も登校してくれてありがとう。」「一人一人の成長を必ず支えていくよ。」「と自分自身に言い聞かせながらハータッチで迎えました。

意義深かった教員研修会

双葉郡小学校長会副会長
榎本晋一郎



榎本 晋一郎

震災と原発事故から九年が過ぎようとしている。双葉郡内の六町村が地元での学校再開・新設を果たし、五町村では実質小中併設の環境で学校経営が行われている。榎葉町も時期は未定であるが榎葉南小学校と榎葉北小学校が統合し旧榎葉南小学校の校舎に移転

する予定である。

今年度、教頭会の協力を得て「双葉郡小学校教員研修会」が震災後初めて開催できたことは大変意義深く双葉郡の復興の大きな一歩である。同じ境遇の教員が一堂に会し、少人数指導や生徒指導、特別支援教育、近隣校との連携、保護者や地域との連携、教員自身の悩みなど「双葉地区の教員ならではの悩み」を共有し、各自の思いを熱く語り情報交換をする姿に心を打たれた。この研修会を通して先生方が活力を得て各学校の活性化につながる幸いである。

榎葉町に戻り学校を再開して三年目となる。町の第二次復興計画では「新生ならはの創造」として「魅力ある教育」「農業の再生」「健康増進とスポーツの振興」の三つの重点施策が掲げられている。これを受け「魅力ある教育」では確かな学力を身につけさせるための効果的なICTの活用、教師の指導力向上のための秋田県学力フォーラムへの複数教員参加、国語科・算数科のスーパーティーチャー招聘模擬授業を今年も計画した。「農業の再生」では学校農園を新設し、町の特産品のさつまいもを栽培し約300kgを収穫した。さつまいもは小中の全家庭

に配付するとともに給食の食材、小中連携キャリア教育の一環として活用する。また、五年生が農業体験の田植えと稲刈りを体験した。「健康増進とスポーツの振興」では「ならばスカイアリーナー」で体育アドバイザーを活用した水泳授業や体力向上のための朝マラソンや体育部企画の業間運動等を実施している。

地域を元気にし学びがいのある学校をめざして地域連携担当教員が地域コーディネーターと連携し、「藍染体験学習」「茶道教室」「マミーすいとん作り」「ゆず農家やさけの築場訪問」など地域人材を活用したふるさと榎葉をまるごと学ぶ地域学習も全学年で数多く実施している。いよいよ来年度から新学習指導要領が完全実施となる。「カリキュラムマネジメント」を確立し、「社会に開かれた教育課程」を「主体的・対話的で深い学び」を通して新学習指導要領で求める資質・能力を育成するために自校の教育課題を踏まえ、校長が明確なビジョンを持って組織を活性化し、創意ある取り組みを積極的に進めていくことが強く求められる。双葉郡の子どもたちの未来のために双葉支会が一枚岩となり力を合わせて諸課題の解決に邁進しましょう。

双葉郡教育復興 ビジョン推進の取組

東日本大震災及び原子力発電所事故により、ふるさとを離れて教育活動を展開してきた双葉郡の教育。多くの支援を受けながら、子どもたちの輝く笑顔のため、教育の復興を目指して

① 小学校絆づくり交流会 ○8月9日(金) ビッグパレットふくしま

毎年、ふたばの未来とともに考える仲間として、双葉郡八町村立小学校と県立富岡支援学校の児童が町村の垣根を越えた仲間づくりを行っている。

午前、様々な学校の児童で縦割り班を構成し、フラフープ送りやピックバトンリレーなど、チーム力を競い合うミニ運動会が行われた。初めて出会う友達でも、一秒でもタイムを縮めたという目標のもと、意見を出し合い、交流する姿があった。交流後も、班ごとに昼食を取りながら活動振り返り、交流の思い出を寄せ書きにまとめた。



午後の部は、同学年で構成した班ごとに、東京パラリンピック種目「ボッチャ」などから好きなアクティビティを選択し、交流を深めた。極小規模校においては、ほとんどの学校活動が異学年合同で実施するため、同学年の仲間と思ひ切り遊んだり競い合ったりする貴重な体験の場にする事ができた。

多くの大学生や高校生、そして双葉地区の中学生がボランティアで、児童の活動をサポートしてくださった。また、児童だけではなく、県内各地で活動する双葉地区の教職員にとっても情報交換や交流をすることができ、貴重な一日となった。



② ふるさと創造学サミット ○12月14日(土) ビッグパレットふくしま

主体性・協働性・創造性を伸ばし、自ら未来を切り拓く力を育むことを目指し、双葉郡の各小中高校では、『ふるさと創造学』に取り組んでいる。これは、

「双葉郡独自の魅力的な教育をカタチにした『ローカルで多様な探究的学び』」であり、「震災で得た経験を、生きる力に」との思いから始まった。そして『伝え合い、つながって、広がる ふるさとふたばの学び』をスローガンとし、ふるさと創造学で取り組んできた一年間の成果を伝え合う場としてサミットが開催される。ふるさとをみつめていく中で捉えた課題について一年間探究したことのまとめとともに、復興に向けて考えてきた成果を、ポスターセッション形式で発表。



「互いに考え、つながり、学びを広げる」ため、参加者との直接対話の時間を大切にしている。町村や学校の置かれている状況は異なっているけれども、ふるさとを想う気持ちは通じ合う。多くの人に様々な質問や意見を直接もらい、双方向で話すことで、ふるさと復興への考えがさらに広がりをみせる。これこそが、このサミットの醍醐味である。ランチタイム交流会では、小学生はオリンピック・パラリンピックに向けた手旗のデザインについて、中学生は自分の学校の魅力発表についてのディスカッションを計画している。双葉地区の児童生徒が、自分たちで決めたテーマをもとに探

【各校の発表テーマ】

- 浪江小・津島小：伝えたい！つながりたい！
二本松校における浪江小・津島小の学び
- なみえ創成小：浪江町の新たな一歩
～農業の復興を通して～
- 川内小：人と人がつながる
川内村の未来に向かって！
- 葛尾小：～佐久間牧場の哲次さんの思いに触れて～
- 双葉南・北小：双葉の元気を発信しよう
- 熊町・大野小：ふるさと大熊町のために
～今の自分たちができることは？～
- 富岡第一・第二小 三春校：富岡町の応援団になろう
- 富岡第一・第二小 富岡校：がんばってます！富岡！
～未来へとつながる富岡の火とわたしたち～
- 楡葉南・北小：ひらこう、ならはの未来
～よりよい未来について、自分達ができることを考えよう～
- 広野小：広野町商店街をもり上げよう プロジェクト
～教えてあげたい！商店街のヒ・ミ・ツ～

＝ 編集後記 ＝

世の中を平和にさせるという穏やかな印象にあふれている「令和」の元号。令和元年度、各学校でも穏やかにそして平和な未来への思いをこめた教育活動が行われていることと幸いです。双葉郡の子供たちの今・そして未来が平和で幸せな日々となることを願うばかりです。広報「ふたば」も多くの方の助けにより、発行することができました。ご寄稿いただきまして皆様に、心より感謝申し上げます。

究したことを伝えあい、つながりあい、そしてふるさとの学びを広げていく「ふるさと創造学サミット」に、ぜひ多くの方に足を運んでいただきたい。他地区の学校で学ぶ子どもたちや教職員はもとより、市町村行政職員、地域の方々など、様々な立場の方々とも意見を交流すること、さらに児童のふるさとへの想いは深まってくことになるだろう。



昨年度のポスターセッションの様子